

# 初山別村まち・ひと・しごと 創生総合戦略

策定 平成27年12月

改正 平成29年 3月

初山別村

# 目 次

第 1	基本的な考え方	-----	1
I	総合戦略策定の趣旨	-----	1
II	総合戦略の位置づけ	-----	1
III	推進期間	-----	1
IV	計画人口	-----	1
V	めざす将来像と基本的方向		
第 2	重点プロジェクト	-----	2
I	政策形成の背景	-----	2
II	進捗管理	-----	2
III	重点プロジェクト	-----	4
1	雇用の創出プロジェクト	-----	4
2	子育て支援プロジェクト	-----	6
3	移住促進・生活環境改善プロジェクト	-----	7

## 第 1 基本的な考え方

### I 総合戦略策定の趣旨

本村の人口は、1955年（昭和30年）の5,640人（国勢調査）をピークに減少へ転じ、2010年には1,369人となり、ピーク時の1/4に縮小している。

2015年（平成27年）現在も人口減少に歯止めはかからず、少子高齢化は全国・全道を上回るペースで進行している。

こうした状況下、人口減少、少子高齢化等の課題、問題意識を村内で共有し、多くの村民や関係者の参画のもと、初山別村における地域社会の創生並びにこの地で暮らし続ける幸せを感じられるまちづくりに向けた施策を計画的に推進するため、初山別村まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「総合戦略」という。）を策定する。

### II 総合戦略の位置づけ

総合戦略は、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」として策定する。

また、「第7期初山別村総合振興計画」（以下「村振興計画」という。）の下部計画として、村振興計画の中でも人口減少問題等に対応する分野別計画と位置づけ、策定するものである。

### III 推進期間

平成27年度から平成31年度までの5年間とする。

### IV 計画人口

初山別村人口ビジョンにおける将来展望、推進期間内の取り組み成果を見込み、推進期間終了時点（平成31年度末）での人口を1,140人とする。

### V めざす将来像と基本的方向

村の地域社会の創生を進めるにあたり、総合戦略において共有すべき将来像として、村振興計画に掲げる基本テーマ（村の将来像）を掲げる。

【めざす将来像】人がきらめき 安らぎと潤いのある ところ豊かな村

この将来像を実現するため、総合戦略においては人口減少問題に対する取り組みを中心に基本的方向（目標）を提示する。

- (1) 新規雇用の創出（農漁業への新規就業者を含む）
- (2) 子どもを産み育てやすい環境、働きながら子育てができる環境をつくる
- (3) 定住したくなる魅力ある生活環境、安心安全な生活環境をつくる

## 第2 重点プロジェクト

### I 施策形成の背景

「第1 基本的な考え方」「IV 計画人口」に掲げる1,140人（平成31年度末）を達成するためには、初山別村人口ビジョン「IV 人口の将来展望（目標設定）」に準じ、次の目標を達成する必要がある。

①合計特殊出生率：

1.30（2015年 H27） 1.50（2020年 H32）

②純移動率：

2015年以降毎年概ね20～24歳の男女がそれぞれ2名（計4名）新たに転入する。

この目標達成のため、次の3つの重点プロジェクトを設定する。

#### (1) 雇用の創出プロジェクト

国内において田舎暮らしを志向する層が増えているが、移住先に安定した働き口のないことが障害の一つとなっており、本村においても安定した働き口は多くなく、雇用創出が喫緊の課題となっている。

その一方で、本村の基幹産業である一次産業は高齢化による担い手不足、後継者不足が深刻であり、現在の人手不足へ対策をとりつつ、早急に後継者対策を講じる必要があるほか、現在、地域に内在する課題をビジネスの手法を用いて解決するコミュニティビジネスを育成し、もって課題解決を図る必要がある。これら対策に関する施策の展開により新規雇用の創出を図る。

#### (2) 子育て支援プロジェクト

本村の合計特殊出生率の向上を図るためには、子どもを産み育てやすく、働きながら子育てができる環境づくりを進める必要がある。このため、出産時の負担軽減、子育てを行う女性の就業支援等の各種施策を展開する。

#### (3) 移住促進・生活環境改善プロジェクト

本村への移住促進並びに現在住んでいる方々が引き続き住み続けられるよう、住環境を始め魅力ある生活環境づくりを進めるほか、安心して安全に暮らし続けることのできる生活環境づくりが肝要である。

このため、住環境の整備促進並びに本村の実情に合った公共交通補完システムの構築等各種施策を展開する。

### II 進捗管理

#### (1) 重要業績評価指標（KPI(\*)）に基づく進捗管理

総合戦略に掲げる施策の進捗度を客観的に把握するため、重点プロジェクトごとに数値目標を、また、主要な施策ごとにKPIを設定する。KPIについては、可能な限り数値による目標値を設定することとし、毎年度進捗管理データとして活用する。

(\*)KPI：Key Performance Indicators

(2) P D C Aサイクル(\*)による戦略の推進

総合戦略を着実に推進するため、毎年度戦略の実施状況を検証し、必要に応じて見直しを行うP D C Aサイクルを確立する。P D C Aサイクルにおいては、初山別村まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議における議論を通じて戦略の検証、見直しを実施する。

(\*) P D C Aサイクル：計画 (Plan) → 実行 (Do) → 評価 (Check) → 改善 (Act) の4段階の活動を繰り返し行うことで、継続的に業務プロセスを改善していく手法。

### Ⅲ 重点プロジェクト

#### 1 雇用の創出プロジェクト

##### (1) 目標

- ・新規雇用の創出（農漁業への新規就業者を含む）

##### (2) 数値目標

指 標	数値目標
起業数、新規雇用者数	1 法人、7 人 (H28～H31累計)
新規就農研修生	3 人 (H29)
労働力融通	1,100人日 (H29～H31累計)

##### (3) 具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI)

具体的な施策・事業	重要業績評価指標
<p><b>農業後継者対策</b> 後継者不足解消のため、新規就農者（後継者含む）支援制度並びに受け入れ体制等の拡充を図り、新規就農を促進する。</p> <p><b>【事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農者支援制度の拡充</li> <li>・新規就農者受け入れ体制の充実</li> </ul>	新規研修生 3 人 (H29)
<p><b>漁業後継者対策</b> 経営体の減少並びに経済規模縮小が見込まれる漁業において、新規就業者の育成・受入を検討する組織を設立する。</p> <p><b>【事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就業者の受入を検討する組織（協議会）の設置</li> </ul>	協議会設立 1 組織 (H29)
<p><b>コミュニティビジネスの育成、起業支援</b> 地域の課題を住民が主体的にビジネスの手法により解決するコミュニティビジネスを育成し、地域の課題解決を図る。また、産業振興に資する事業所の新規開設を支援し、もって新規雇用の創出を図る。</p> <p><b>【事業】</b></p>	設立 1 法人 新規雇用 5 人 (H31)

<ul style="list-style-type: none"><li>・地域おこし協力隊定住起業支援</li><li>・村特産品製造促進事業の拡充</li></ul>	
<p><b>村内企業による新規雇用支援</b> 新規に正規従業員を雇用する村内企業に対し助成金を支給することにより、村内の新規雇用の拡大を図る。</p> <p><b>【事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・新規雇用助成</li></ul>	新規雇用 2 人 (H28)
<p>労働力確保対策 農漁業の繁忙期を始め、村内で発生している労働力不足を解消するため、村内異業種間での融通並びに村外からの労働力移入を促進する。</p> <p><b>【事業】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・労働力融通・確保事業</li></ul>	異業種間融通等 延べ1,100人日 (H29～H31累計)

## 2 子育て支援プロジェクト

### (1) 目標

- ・子どもを産み育てやすい環境をつくる
- ・働きながら子育てができる環境をつくる

### (2) 数値目標

指 標	数値目標
合計特殊出生率	1.30 (H31)
子育て世代が子育てしやすいと感じる割合	+0.50(*) (H31)

(\*)子育て世代へのアンケート調査。評点（5段階、0を中庸）の加重平均値

### (3) 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

具体的な施策・事業	重要業績評価指標
<p><b>出産時の負担軽減</b>            村内に出産可能な医療機関がないため、通院に係る交通費を助成し、もって子育て世帯の経済的負担の軽減を図る。</p> <p><b>【事業】</b>            ・妊娠時通院交通費の助成</p>	子育て世代の女性の就業率 75% (H31)
<p><b>子育て世代の女性の就業支援</b>            働きながら子育てをする女性を支援し、その負担を軽減することにより働く女性の率の向上を図る。</p> <p><b>【事業】</b>            ・村へき地保育所延長保育の実施            ・学童保育の実施（放課後児童クラブ等の設置）</p>	待機児童ゼロの継続
<p><b>多世代交流の場の提供</b>            多世代交流の場、地産地消の食の提供並びに情報発信の拠点を整備する。</p> <p><b>【事業】</b>            ・村食・情報拠点づくり事業（ムラカフェ）</p>	多世代交流参加 1,000人 (H27)  食の販売総額 500千円 (H27)



### 3 移住促進・生活環境改善プロジェクト

#### (1) 目標

- ・定住したくなる魅力ある生活環境づくり
- ・安心安全な生活環境づくり

#### (2) 数値目標

指 標	数値目標
村外からの移住者	20人 (H27～H31累計)

#### (3) 具体的な施策と重要業績評価指標 (KPI)

具体的な施策・事業	重要業績評価指標
<p><b>交通弱者対策</b>            自家用車を運転できず、かつバス停から遠い等の理由で公共交通機関を利用できない、いわゆる交通弱者を支援するため、現行システムを補完する交通システムを構築する。</p> <p><b>【事業】</b>            ・地域交通補完システム</p>	村の交通環境満足度 3. 0 (*) (H31)
<p><b>住環境の充実</b>            住み慣れた地域で永く暮らし続けたいと思う人並びに新たに村に住もうとする人のため、空き家等の情報提供、持ち家（空き家）の購入、改修に対する助成、高齢者の生活をサポートする等住環境の整備及び支援を行う。</p> <p><b>【事業】</b>            ・老若混住住宅（公住）の建設            ・新たな住環境整備促進助成事業の創設            ・住宅整備資金貸付事業（継続）            ・空き家バンク</p>	村の住環境満足度 3. 5 (*) (H31)
<p><b>情報提供の拠点づくり</b>            多世代交流の場、地産地消にこだわった食の提供並びに情報発信の拠点を整備する。</p> <p><b>【事業】</b>            ・[再掲] 村食・情報拠点づくり事業（ムラカフェ）</p>	

(\*) 村民へのアンケート調査。評点（5段階、悪い→よい：1→5）の加重平均値